

2020年度

お盆休みの間に体育館の床の工事が全て終わっていました。ピカピカです。そして各コートの線もくっきり。いつでも反復横跳びやシャトルランができるように線を工夫して引いています。きれいになった体育館での体育や活動が楽しみです。きっと子どもたちのテンションもあがるでしょう。



# 大江の風



8月17日  
No.78

## 残暑お見舞い申し上げます。

残暑お見舞い申し上げます。連日の猛暑には閉口しております。皆様はお変わりなくお元気にしていらっしゃいますか。今日17日から全国509校で、学校が始まりました。全国の公立小で最も短い夏休みは9日間だそうです・・・でも、子どもたちに休養を取ってもらおうと夏休みの宿題を無くしたそうです。熊本市はあと2週間、夏休みがありますね。宿題の進捗状況はいかがですか？徐々に生活のリズムを学校のリズムに戻していきましょうね。



お休みの日に学校に来ましたら、自由研究をしている4年生に会いました。がんばっていますね。感心しました。

## 親子の交感を大事に・・・「家読」のすすめ

さて今年の夏は、「特別な夏」。なかなか人の集まる場所には行けないので、SNSでは「室内でできる運動」や「料理作り」「家族で楽しめるゲーム」「お家キャンプ」など様々な動画が配信されています。大人は外では飲めないので「家飲み」が流行。それに習って「家読」はいかがですか？というお話です。

もう60年前になりますが、児童文学者の椋鳩十さんが「母と子の20分間読書」なるものを提唱されました。「教科書以外の本を、子どもが20分間くらい音読するのを、母が傍らに座って静かに聞く・・・というただそれだけのことを続けましょう」という内容でした。それは大きな運動となり、全国に広がりました。昭和30年代のことです。親がまだ十分に我が子に関われない中、20分間という時間を生み出すことにより、本の世界を通して子どもと親に深い絆ができていきました。子どもが感じる喜びや悲しみ、感動や驚嘆などが親の心にも響いていったのです。

昭和の時代が終わり、平成から令和という新しい時代になった今こそ、「母と子の20分間読書」の『心根』を復活させることが大事ではないかと考えます。恥ずかしながら我が家を見ても、それぞれがスマホかタブレットに熱中し、親子が感動を交感・共有している場面が少ないような・・・ばあばは少し心配になりました(笑)。「子どもが読むのを親が聞く」だけでなく、「一冊の本を子どもと親が交代で読み合う」「親が読むのを子どもが聞く」などやり方は自由。さらに兄弟等いれば全員で交代読みをしてもよい。さらに読みだけでなく、読み終わったら感想を出し合ってみるのも楽しいですね。椋鳩十さんは、なんとマンガでもいいですよと言っています。文字がたくさんある書物だけでなく、時には図鑑や絵本などもよいと思います。「家読」を通して親子が感動を交感し、家族のコミュニケーションを深め、特別な夏も案外よかったなと思えたら最高ですね。

## 修学旅行の実施について（通知）

委員会から通知がきましたのでお知らせします。

『本市においても8月4日にリスクレベルが「レベル4特別警報」に引き上げられました。各学校においてもこのような状況の中、修学旅行の実施について検討を重ねていただいているところです。本旅行は、異なる生活環境の中で見聞を広め、自然や文化等に親しみ、活動を通して教師と児童、児童相互の人的なふれあいを深め、楽しい思い出をつくること等を目的とし、価値ある教育的体験活動と捉えております。本旅行は、県外の自然や文化に触れる体験や平和学習等、貴重な活動を行うことから、不要不急の外出ではないと考えております。さらに、本旅行においては、実施に向け長崎県及び長崎市並びに各旅行業者、各宿泊施設及び各交通機関においても感染症対策を講じて対応していただいているところです。については、「レベル4特別警報」期間ではありますが、感染症対策を講じながら実施願います。

No.73でお知らせしたとおり、修学旅行は12月14・15日に変更しております。実施において心配される場合は、再度延期または県内日帰りを検討していきます。各学年の社会科見学旅行も感染拡大防止を徹底した大型バスについては、許可されていますので、実施の方向で夏休み中に職員が下見等を行っているところです。5年生の宿泊教室についても宿泊施設の感染防止は万全でした。制限はありますが、2学期からも最高の大江の教育が実施できるよう、努力してまいります。